

2019年度
インターネットサービス実施計画

日本放送協会

2019年2月13日

目 次

はじめに	P.1
基本方針	P.1
第1部 受信料を財源とするサービス	
1. 受信料を財源とし、広く一般の視聴者に提供するサービス （2号受信料財源業務）	
（1）国内放送関係	
I. 放送番組のジャンルごとのサービス	
① ニュース（報道・解説）	P.4
② スポーツ	P.5
③ 生活	P.6
④ 教育・科学・教養・福祉	P.7
⑤ 娯楽	P.9
⑥ 大型企画	P.10
II. 複数のジャンルにまたがるサービス	
① インターネットによる番組の周知・広報	P.11
② ラジオ放送を補完するインターネットサービス	P.12
③ インターネットによるアーカイブスの提供	P.13
④ インターネットに接続されたテレビ向けのサービス	P.13
⑤ 地域放送局のインターネットサービス	P.14
III. 時限的な取り組み	
① 2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」 に向けた各種取り組み	P.15

(2) 国際放送関係

I. 国際放送番組に対応するサービス

- ① 「NHKワールド JAPANオンライン」
ホームページの充実 P.16
- ② テレビ国際放送の放送同時提供とオンデマンド提供 P.16
- ③ ラジオ国際放送の放送同時提供とオンデマンド提供 P.17

(3) 試験的な提供について P.18

(4) 2号受信料財源業務の費用 P.19

2. 受信料を財源とし、事業者等へ提供するサービス

(3号受信料財源業務)

(1) 国内放送関係 P.20

(2) 国際放送関係 P.20

(3) 3号受信料財源業務の費用 P.20

第2部 有料で行うサービス

1. 利用料金を財源とし、一般の利用者向けに有料で提供する
サービス(2号有料業務(NHKオンデマンド)) P.21

2. 有料で事業者等へ提供するサービス(3号有料業務) P.22

3. 2号有料、3号有料業務の収支 P.22

第3部 実施状況に関する資料の作成および評価について P.23

第4部 インターネット活用業務 審査・評価委員会による
インターネット活用業務の適切性の確保の仕組みについて P.23

はじめに

この実施計画は、NHKのインターネット活用業務の実施基準（放送法第20条第2項第2号および第3号の業務の実施基準）に基づき、2019年度に実施するNHKのインターネットサービスの内容を示すものです。

〔実施の期日〕2019年4月1日（月）から実施

基本方針

NHKは、放送法の精神に則り、公共の福祉の実現に向けた価値を提供するという使命を担っています。この使命を全うするため、NHKは、経営計画（2018-2020年度）において、以下の6つの「公共的価値」の実現を追求することを掲げています。一つめは「正確、公平・公正な情報で貢献」。人々の判断のよりどころとなる正確な情報を公平・公正に伝え、健全な民主主義の発達に寄与します。二つめは「安全で安心な暮らしに貢献」。「命と暮らしを守る報道」に全力を挙げ、より多くの人々の「安全・安心」に貢献します。三つめは「質の高い文化の創造」。「第一級のコンテンツ」制作や最先端技術を駆使したサービスを通じ、文化の向上に寄与し、技術の進歩発達の先導的な役割を果たします。四つめは「地域社会への貢献」。さまざまな文化や暮らしが息づく地域の豊かさ、固有の課題などを共有し、多様な地域社会に貢献します。五つめは「日本と国際社会の理解促進」。国際社会との相互理解を進めるため、日本についての正確で多様な情報を積極的に発信します。そして六つめは「教育と福祉への貢献」。幅広い年齢層の教育・学習・福祉に関するコンテンツや、高齢者・障害者なども利用しやすいサービスを通して、暮らしやすい社会の実現に貢献します。

NHKのインターネット活用業務は、実施基準に則り、放送を補完してその効果・効用を高め、国民共有の財産という性格をもった放送番組等を広く国民に還元するなど、放送法第15条に掲げられたNHKの目的を達成するために実施します。実施するサービスには、受信料を財源とするサービスと有料で行うサービスがあります。

NHKは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に最高水準の放送・サービスを提供することを目指しています。その前年にあたる2019年度、NHKは、より多くの人々に使っていただける、より豊かで質の高いサービスを実施していきます。放送を太い幹としつつ、激しい環境の変化や技術の進歩発達に適時・適切に対応しながら、信頼される「情報の社会的基盤」としての役割を果たしていくために、インターネットならではの特性を生かして、放送番組やその理解増進情報の提供をさらに強化します。より多くの人々が、さまざまな状況や環境下において「いつでも、どこでも」利用できるサービスを提供するため、新しい技術を積極的に取り入れながら、多様な伝送路を通じて、放送だけでは提供しきれない多種多様な情報を発信していきます。また、障害のある人も積極的に参加・貢献できる「共生社会」への理解を深めるとともに、人種・国籍・性別などの違いを超えて多様な価値観を認め合う社会を目指したサービスを充実させます。

放送において培ってきた民間放送事業者との二元体制を踏まえ、放送と通信の融合時代においても、相互にメリットをもたらす協調と連携を適切に進めていきます。

2019年度、NHKは、経営計画（2018-2020年度）に掲げた6つの「公共的価値」を、みなさまの暮らしの中で「いつでも、どこでも、より深く、より身近に」実現するため、放送を太い幹としつつ、インターネットも積極的に活用して、“公共メディア”への進化を目指します。

第1部 受信料を財源とするサービス

1. 受信料を財源とし、広く一般の視聴者に提供するサービス (2号受信料財源業務)

(1) 国内放送関係

I. 放送番組のジャンルごとのサービス

個々の放送番組に対応するインターネットサービスは、以下の6つのジャンルに沿って提供します。

① ニュース（報道・解説）

人々の判断のよりどころとなる正確な情報を公平・公正に伝え、健全な民主主義の発達に寄与することは、公共放送の使命です。インターネットにおいても、世の中の課題や最新事情、信頼できる情報を、多様な意見や考え方に触れられるように配慮しつつ、より早く、より深く、よりわかりやすく伝えます。

「命と暮らしを守る」防災・減災報道に全力で取り組みます。大規模災害時には、さまざまな状況におかれた人々の求める情報が「いつでも、どこでも」得られるように、気象・災害情報や避難所・ライフライン等に関する情報を、多様な伝送路を通じて提供します。正確な情報を迅速に伝えることで、安全・安心な暮らしに貢献します。

また、地域の魅力や課題を広く発信・共有することも公共放送の役割です。インターネットにおいても、日本各地のさまざまな地域で日々起きている出来事をきめ細かく伝えることにより、多様な地域社会に貢献します。

災害時を含め、国民的関心の特に高いニュース等に関連する現場映像・音声等をリアルタイムで提供することがあります。

さらに、国民生活や社会全体に大きな影響を及ぼす情報で、特に迅速に提供すべきものを伝えるニュース等（全国放送ならびに地域放送）の放送番組を、NHKオンライン等で、放送と同時に提供することがあります。提供した放送番組および提供時間は、実施の都度、NHKオンラインで公表します。

なお、平時において、災害時における放送中番組の提供に関連する訓練を行うことがあります。

（主なコンテンツ、サービス）

- ・「NHK NEWS WEB」
- ・「NHKニュース・防災」アプリ
- ・「あなたの天気・防災」ホームページ
- ・大きな被害が発生している、または発生が想定される自然災害等を伝える放送のネット同時提供
- ・国民生活や社会全体に大きな影響を及ぼす情報で、特に迅速に提供すべきものを伝える放送のネット同時提供
- ・大規模な自然災害時のロボットカメラ映像・音声
- ・国民的関心の高い事件、事故、出来事等の現場映像・音声

② スポーツ

スポーツ番組やニュースを通じて喜びや感動を共有し、人と人とのつながりを深めることや、さまざまなスポーツに関する情報を最先端の技術を駆使して伝えることにより、質の高いスポーツ文化の創造に寄与し、技術の進歩発達の先導的役割を果たすことも、公共放送の務めです。

インターネットにおいても、スポーツ番組・ニュースの理解増進情報の発信・充実に取り組みます。東京オリンピック・パラリン

ピックを前に、国内外のさまざまなスポーツイベントで、新しい技術を積極的に活用しながら、新鮮な切り口や演出に挑戦します。“わくわく” “ドキドキ” するようなスポーツの魅力や迫力を多面的に伝えることにより、スポーツ文化の発展・向上に寄与します。

また、さまざまなスポーツのルールや選手のこれまでの活躍ぶりを掘り下げたコンテンツや、リアルタイムで放送しない競技・試合の映像・音声のリアルタイム提供など、詳細な背景・周辺情報を、わかりやすく見ごたえのある理解増進情報として提供することにより、「いつでも、どこでも」幅広いジャンルのスポーツに身近に親しんでもらえる環境づくりを目指します。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHKスポーツオンライン」
- ・「NHKスポーツストーリー」
- ・NHKがインターネット配信の権利を有するスポーツイベントのホームページ

③ 生活

食・住・趣味・育児等に関する生活・社会情報を通じて人々の関心や疑問に応え、暮らしやすい社会の実現に貢献することも、公共放送の重要な役割です。

インターネットにおいても、食・住・趣味・育児等の情報を伝える放送番組に対応して、番組の内容を補完する多種多様で魅力的なコンテンツや、視聴者の悩み・疑問に向き合う情報等を、視聴者一人ひとりが知りたい情報だけではなく、生活に役立つ情報やヒントも容易に見出せるように配慮しながら、理解増進情報として提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHKらいいふ」

- ・「NHK 1. 5チャンネル」
- ・「あさイチ」ホームページ

④ 教育・科学・教養・福祉

幅広い年齢層の教育・学習に役立つコンテンツや、高齢者・障害者などが利用しやすいサービスの充実を通して、教育と福祉に貢献すること、また、「第一級のコンテンツ」制作によって質の高い文化の創造に寄与することも、公共放送の使命です。

インターネットにおいても、多種多様な教育番組やその理解増進情報を提供することにより、暮らしやすい社会の実現に貢献し、文化の発展・向上に寄与します。また、国際社会との相互理解を進めるため、そのような理解増進情報を、日本語以外のさまざまな言語で伝えるサービスも実施します。

a. 青少年・教育

青少年・教育の分野では、学校放送番組とその理解増進情報や、生涯を通じて「いつでも、どこでも」学びたいときに学べる利便性の高い学習コンテンツなどを提供することにより、次世代の育成と暮らしやすい社会の実現に貢献します。

インターネットの普及による学校教育現場の学習モデルの変化に適切に対応するため、学校放送・高校講座関連コンテンツや、幼児・青少年向けコンテンツの一層の充実に取り組み、放送番組やその理解増進情報の提供を通して、視聴者の“知りたい”“学びたい”という気持ちに応えます。

学校放送番組を提供している「NHK for School」では、小・中学校への普及が広がるタブレット端末の利用を想定したサービスなどを通じて、ICT化が進む学校現場をサポートします。

また、未就学児から小学生向けのコンテンツを集約した新たなポータルサイトを開設し、子どもがアクセスしても安心なサービスの充実に取り組みます。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHKキッズ」
- ・「NHK for School」ポータルサイト・アプリ
- ・「NHKゴガク」ポータルサイト・アプリ
- ・「NHK全国学校音楽コンクール」ホームページ
- ・「NHK高校講座」ホームページ

b. 科学・自然

科学・自然の分野では、科学・技術・自然・環境等をテーマにした放送番組に対応して、視聴者の興味や関心を促し、知的好奇心に応える、豊かで質の高いコンテンツを提供します。また、医療・健康をテーマにした放送番組に対応して、番組の内容を解説・補足する正確な情報を、視聴者の興味・関心に即してわかりやすく伝えます。これらのテーマに関連する詳細な背景・周辺情報を提供することにより、文化の発展・向上に寄与し、暮らしやすい社会の実現に貢献します。

さらに、「ロボコン」関連のインターネットサービスなどでは、過去の放送済み番組や映像記録のうち、視聴者のニーズが高いコンテンツの一部を動画で配信する等、これまでに取材・制作の過程で蓄積してきたコンテンツを提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHK健康チャンネル」
- ・「ガッテン！」ホームページ
- ・「ダーウィンが来た！」ホームページ
- ・「NHKロボコン」ホームページ

c. 教養・福祉

教養・福祉の分野では、歴史・美術・宗教等をテーマにした放送番組に対応して、視聴者の興味や関心を促し、知的好奇心に応える、豊かで多彩な理解増進情報を提供することにより、質の高い文化の創造に寄与します。また、社会のさまざまな課題を掘り下げ、解決策を視聴者のみなさんとともに考えるため、教養・福祉番組に対応したインターネットサービスの充実を図ります。

福祉の分野においては、手話ニュースの動画提供や、わかりやすい日本語で情報を伝える在日外国人向けのサービスなど、障害のある人も積極的に参加・貢献できる「共生社会」への理解を深めるとともに、人種・国籍・性別などの違いを超えて多様な価値観を認め合う社会を目指したサービスを充実させます。

特に災害時においては、障害のある人や高齢者など、支援を要する人たちに向けて、避難や生活に役立つ情報を正確・迅速に提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「プロフェッショナル 仕事の流儀」ホームページ
- ・「日曜美術館」ホームページ
- ・「ハートネットTV」ホームページ
- ・「NHK手話ニュース」ホームページ

⑤ 娯楽

ドラマ、エンターテインメント番組等をバランスよく編成することで、視聴者の感性を刺激し、娯楽コンテンツへのニーズに応えることも、公共放送の重要な役割です。また、古典芸能等の伝統文化の保護・育成・理解を促進することで次世代の育成につなげ、質の高い文化の向上に貢献します。

インターネットにおいても、番組の登場人物、出演者、時代背景など、放送番組をより深く楽しめる詳細な番組背景・周辺情報や、放送番組と同時に楽しめる豊かで質の高いコンテンツなどを理解増進情報として提供することにより、文化の発展・向上に寄与します。

a. ドラマ・映画

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHKドラマ」
- ・「連続テレビ小説」ホームページ
- ・「大河ドラマ」ホームページ
- ・「BSシネマ」ホームページ

b. エンターテインメント・音楽伝統芸能

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「L I F E！ 人生に捧げるコント」ホームページ
- ・「ブラタモリ」ホームページ
- ・「シブヤノオト」ホームページ
- ・「にっぽんの芸能」ホームページ
- ・「プレミアムシアター」ホームページ

⑥ 大型企画

国民的関心の高いニュース、社会問題、社会的意義の高いテーマについて、「NHKスペシャル」等の大型企画番組を制作・編成し、視聴者の関心・興味に応えることも、公共放送の使命のひとつです。

インターネットにおいても、社会的な課題について丁寧に取材した正確な情報や、新しい技術を生かして番組の内容を解説・補足す

る詳細な背景・周辺情報などの豊かで質の高い理解増進情報を、視聴者が多様な意見や考え方に触れられるように配慮しながら提供することにより、「公共的価値」の実現を追求します。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHKスペシャル」ホームページ
- ・「クローズアップ現代+」ホームページ
- ・「明日へ つなげよう」ホームページ

II. 複数のジャンルにまたがるサービス

NHKが実施するインターネットサービスには、個々の放送番組に対応するジャンルごとのサービスだけではなく、複数のジャンルにまたがるサービスもあります。そのようなサービスは、以下の5つの領域に沿って提供します。それぞれの領域で「公共的価値」の実現を追求します。

① インターネットによる番組の周知・広報

番組の放送日時やみどころ、出演者、ドラマの登場人物、番組の背景、制作の舞台裏など、視聴者のより深い番組理解につながる情報を、インターネットの特性を生かして幅広く提供します。

NHKオンラインのトップページおよびその他のホームページに加え、ソーシャルメディアを積極的に活用することにより、公式情報の発信・拡散を促進し、人々が番組情報に接触する機会を増やします。また、広報目的での放送番組の動画提供など、番組の魅力を伝えるコンテンツの提供により番組への興味・関心を促し、より多くの人々に番組を視聴してもらえような周知・広報の取り組みの充実をはかります。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHKオンライン」
- ・「NHK_P R」ホームページ
- ・放送番組の公式SNS等
- ・連続テレビ小説、広報番組等の広報目的での動画提供

② ラジオ放送を補完するインターネットサービス

ラジオ第1、ラジオ第2およびFMの番組を放送と同時にインターネットで提供するサービスと、ラジオ番組をオンデマンド提供する聴き逃しサービスを通じて、より多くの人々が「いつでも、どこでも」ラジオ番組の音声を聴けるような環境づくりを進めます。災害時等にラジオ放送を聴く手段がない人や、地域の情報に他の地域からアクセスしたい人などに向けて、ラジオ放送を補完し、安全で安心な暮らしや多様な地域社会に貢献するサービスの充実をはかります。

また、若い聴取者の接触拡大につながるコンテンツなど、ラジオ番組への理解を深め、聴取者とのコミュニケーションを促進する理解増進情報を提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「らじる★らじる」(ラジオ番組の放送同時提供とオンデマンド提供)
- ・「らじらー！」ホームページ
- ・「ラジオニュース」等のオンデマンド提供

③ インターネットによるアーカイブスの提供

NHKが保存しているニュースや番組等の映像・音声記録のうち、特に社会的意義が高いものをインターネットで公開し、国民の共有財産という性格をもった多種多様な映像・音声記録を視聴者に還元します。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHKアーカイブス」ポータルサイト
- ・「戦争・戦後史証言アーカイブス」ホームページ
- ・「東日本大震災アーカイブス」ホームページ

④ インターネットに接続されたテレビ向けのサービス

インターネットに接続されたテレビ向けに、データオンライン、ハイブリッドキャスト、BS4K・8Kのデータサービスを通じて、独自の技術を活用した多彩なサービスを提供します。

データ放送の気象情報を補完して安全・安心な暮らしに貢献する気象レーダーの拡大画像、24時間「いつでも」視聴できる学習や暮らしに役立つコンテンツ、番組と連動して番組内容の理解を深めるコンテンツなどを、ニュース・番組の理解増進情報として、インターネットを通じて提供します。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・データオンライン（「気象レーダー拡大」「連続テレビ小説」「大河ドラマ」「あさイチ」など）
- ・ハイブリッドキャスト（「NHK NEWS WEB」「あなたの街の空」「連続テレビ小説」「大河ドラマ」など）
- ・BS4K・8Kデータサービス

⑤ 地域放送局のインターネットサービス

それぞれの地域に関連するさまざまな情報やコンテンツを集約した利便性の高いインターネットサービスを提供することにより、多様な地域社会に貢献します。

きめ細かい防災・減災情報やライフライン情報などをインターネットでも正確・迅速に伝え、地域の安全・安心に寄与します。

また、地域放送番組に対応して、住民の関心が高いテーマについて丁寧に取材した正確な情報や、暮らしに役立つ身近な情報やヒントを理解増進情報として提供し、地域社会の活性化に貢献します。

さらに、地域にとって切実な社会的課題を取り上げたニュース・番組や、地域の魅力を伝える地域発ドラマなどの背景・周辺情報を全国に向けて発信し、多様性を持ったそれぞれの地域の期待に応えます。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「首都圏」ホームページ
- ・「各地域放送局」ホームページ
- ・「各地のニュース」ホームページ
- ・「NHK各地域災害情報」ホームページ
- ・「地域発ドラマ」ホームページ

III. 時限的な取り組み

① 2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」に向けた各種取り組み

NHKは、2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」で最高水準のサービスを提供することを通じて、質の高い文化の創造、日本と国際社会の理解促進、教育と福祉への貢献などの「公共的価値」の実現を追求していきます。

2019年度末の2020年3月からは各地をめぐる聖火リレーも始まることから、インターネットにおいても、放送の補完として、感動を伝え視聴者の心に残るような「東京オリンピック・パラリンピック」関連ニュース・番組の理解増進情報を幅広く提供します。最先端の技術を積極的に活用した新たなサービスを通じて、技術の進歩発達の先導的役割を果たしながら、質の高いスポーツ文化の創造に寄与します。

また、障害のある人も積極的に参加・貢献できる「共生社会」への理解を深めるとともに、人種・国籍・性別などの違いを超えて多様な価値観を認め合う社会を目指した「東京オリンピック・パラリンピック」関連サービスを実施します。障害者スポーツへのさらなる理解を促すコンテンツや、障害者などが直面する社会的な課題について視聴者がより身近なこととして理解を深め、解決策を考えるきっかけとなるようなコンテンツを提供することにより、暮らしやすい社会の実現に貢献します。

さらに、過去のオリンピック・パラリンピックに関連する多種多様な背景・周辺情報をインターネットで公開し、国民の共有財産という性格をもったこれらの映像・音声記録を視聴者に還元します。

(主なコンテンツ、サービス)

・「Tokyo2020NHK情報サイト」

(2) 国際放送関係

I. 国際放送番組に対応するサービス

① 「NHKワールド JAPANオンライン」ホームページの充実

人や情報の国境を越えた交流が加速し、国際化が飛躍的に進む中、NHKは「信頼される公共放送」として、世界に向けて多彩なサービスを積極的に発信し、日本と国際社会の理解促進に寄与していきます。

日本・アジアへの関心の高まりに応え、ホームページやアプリを通じて、日本やアジアのニュース・情報の発信をより強化し、迅速かつわかりやすく伝えます。また、中国語の音声吹き替えなどを施したストリーミング動画を理解増進情報として提供することがあります。さらに、アプリで提供している日本国内の地震・津波情報等を英語と中国語で速報し、訪日外国人の安全・安心を支えます。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・「NHKワールド JAPANオンライン」ホームページ
(18言語)
- ・「NHKワールド JAPANオンライン」ニュースサイト
(17言語)
- ・「NHKワールド JAPANオンライン」日本語学習サイト
(17言語)
- ・「NHKワールド JAPAN」アプリ
(テレビとラジオを統合)

② テレビ国際放送の放送同時提供とオンデマンド提供

NHKは、ニュースのほか、日本の文化や経済・産業などの事情を紹介する幅広いジャンルのテレビ国際放送の番組を、インター

ネットならではの技術を活用して提供し、2019年度も「見たくなる国際放送」を目指していきます。

「NHKワールド JAPAN」テレビ国際放送（英語）は、放送と同時にインターネットで提供します。また、放送済み番組から40番組程度を「見逃しサービス」としてビデオ・オン・デマンド（VOD）で提供するとともに、一部の番組については、中国語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語など多言語の字幕付加や音声吹き替えを行い、世界のより多くの利用者が「NHKワールド JAPAN」のコンテンツに接触する機会の拡大を図ります。

（主なコンテンツ、サービス）

- ・「NHKワールド JAPAN」テレビ国際放送の放送同時提供
- ・「NHKワールド JAPAN」テレビ国際放送のオンデマンド提供
- ・「NHKワールド JAPAN」アプリ

③ ラジオ国際放送の放送同時提供とオンデマンド提供

日本を世界に、積極的に発信していくため、インターネットを通じて、「いつでも、どこでも」利用できるよう、ラジオ国際放送の多言語コンテンツを幅広く展開していきます。「NHKワールド JAPAN」ラジオ国際放送（18言語）は、ニュース等を放送と同時にインターネットで提供するとともに、オンデマンドでも番組を提供します。

（主なコンテンツ、サービス）

- ・「NHKワールド JAPAN」ラジオ国際放送の放送同時提供
- ・「NHKワールド JAPAN」ラジオ国際放送のオンデマンド提供
- ・「NHKワールド JAPAN」アプリ

(3) 試験的な提供について

放送を補完する観点から、放送番組を放送と同時に提供するサービスの改善・向上の検討に資するために、試験的な提供を実施することがあります。

試験的な提供は、NHKで放送する番組について、実施基準に則って実施します。提供にあたっては、事前に実施日時（期間）、提供内容、費用等を含む試験計画を作成し、公表します。

また、試験的な提供が終了する都度、提供した番組とその提供時間を公表し、試験結果については、終了後にNHKオンラインで公表します。

(4) 2号受信料財源業務の費用

2号受信料財源業務の費用は、受信料収入の2.4%にあたる168億円です。内訳は、物件費が131億円、人件費が31億円、減価償却費が6億円で、物件費のうち、国内放送関係は110億円、国際放送関係は20億円です。

国内放送関係の110億円の内訳は、番組ホームページの制作・更新、アプリや新サービスの開発、東京オリンピック・パラリンピック関連のコンテンツ制作など、コンテンツ関連が73億円、サーバー・ネットワークの構築や制作システムの整備などインフラ関連が37億円です。

国際放送関係の20億円の内訳は、コンテンツ関連が11億円、インフラ関連が9億円です。

2号受信料財源業務の費用については、適正な上限の中で、抑制的に管理し、効率的なサービス実施に努めます。

※「(3) 試験的な提供」の費用は1億円で、国内放送関係に含まれます。

2. 受信料を財源とし、事業者等へ提供するサービス (3号受信料財源業務)

(1) 国内放送関係

I. 国内事業者への提供

多数の国民の生命・財産に切迫した危機があると考えられる大規模災害時等において、他のインターネット事業者からの申し出に基づき、NHKが放送する緊急ニュースを、当該事業者が放送と同時に提供することを認める場合があります。また、公益上特に意義があると認められる場合に、過去番組等を他の事業者に提供することがあります。

(主なコンテンツ、サービス)

- ・災害時等における事業者等への情報提供・放送同時提供
- ・「平和アーカイブス」関連番組の提供

(2) 国際放送関係

I. 海外事業者への提供

NHKの国際放送について、より多くの海外の視聴者に接触していただけるようにする施策の一環として、動画や音声の放送同時提供やオンデマンド提供を行う海外の事業者に国際放送番組を提供することがあります。また、公益上特に意義があると認められる場合に、国際放送番組を海外の事業者に提供することがあります。

(3) 3号受信料財源業務の費用

これらの業務の費用は0.1億円を想定しています。

第2部 有料で行うサービス

1. 利用料金を財源とし、一般の利用者向けに有料で提供するサービス（2号有料業務（NHKオンデマンド））

（1）NHKオンデマンドサービス

NHKが国内で放送した番組およびその理解増進につながる情報などを、一般の利用者向けに提供する会員制有料動画配信サービスです。NHKが直接サービスを提供する「直接提供型」と、外部のプラットフォーム事業者を通じてサービスを提供する「プラットフォーム経由型」の2種類があります。

2019年度も引き続き、国民共有の財産という性格を持った放送番組等を広く国民に還元するために、コンテンツの充実や利便性の向上、利用者の拡充を目指してサービスの向上に取り組みます。

I. サービスの種類

① 見逃し番組サービス

「大河ドラマ」「連続テレビ小説」や「NHKスペシャル」、
「NHKニュース7」、スポーツ中継番組など、NHKで放送している人気番組等を、放送から1～3週間程度のあらかじめ定めた期間、提供します。

② 過去番組サービス（特選ライブラリー）

名作ドラマや大型ドキュメンタリー番組など、見逃し番組サービスでの提供期間を過ぎた過去の放送番組等を一定期間または期間を定めずに提供します。

II. 契約種別

① 単品等

放送番組等の中から、その都度課金して利用可能とするものです。

② 見放題パック

個々の放送番組等の入れ替わりがあることを前提とした特定範囲の複数本の放送番組等を一括対象とし、一定期間、利用可能とするものです。

2. 有料で事業者等へ提供するサービス（3号有料業務）

（1）ビデオ・オン・デマンド（VOD）事業者への番組提供

NHKが国内で放送した番組などを、ビデオ・オン・デマンド（VOD）事業を行っている対象事業者から求めがあった場合、公共放送への信頼を損なわないことを前提に、「放送番組等有料配信業務勘定」の健全な収支や2号有料業務、さらには国内放送等との関係などを総合的に考慮して、有料で提供します。

3. 2号有料、3号有料業務の収支

2号有料業務および3号有料業務は、区分経理の対象であり、「放送番組等有料配信業務勘定」として計理されます。

「放送番組等有料配信業務勘定」の予算では、事業収入は21億円、事業支出は21億円で、事業収支差金は0.1億円です。

第3部 実施状況に関する資料の作成および評価について

この実施計画に記載した業務の実施状況については、年度終了後に、収支を含めた実施結果を作成し公表します。

また、技術の発達、需要の動向、市場競争への影響、受信料の公平負担との関係その他の事項を勘案して、多角的な評価を行い、サービスの充実、改善に取り組みます。

実施計画は、必要に応じて、年度途中に変更することがあります。

第4部 インターネット活用業務 審査・評価委員会によるインターネット活用業務の適切性の確保の仕組みについて

インターネット活用業務の実施計画の策定と実施状況の評価にあたっては、外部委員からなる「インターネット活用業務 審査・評価委員会」に、適切性の確保の観点からの見解を求めています。

2019年度の実施計画策定にあたり、委員会に諮問して見解を求めたところ、委員会からは、サービスの公共性と市場影響を中心に検討・評価した結果、概ね妥当であると考えられる旨の見解を受けています。この見解を踏まえ、2019年度の実施計画を決定しました。委員会での審議で指摘された事項に留意しつつ、適切に業務を行っていきます。

この実施計画に基づき実施するインターネット活用業務の遂行にあたり、同種のサービスを行う事業者または外部事業者から意見、苦情等が寄せられたときには、委員会に検討を求め、その意見を尊重して、必要な措置を講じます。

委員会には、意見、苦情等の状況を含め、四半期ごとにインターネット活用業務の実施状況を報告しています。また、毎年度の終了

時には、一年間のインターネット活用業務の実施状況と評価結果について委員会に諮問し、主に公共性と市場競争への影響の観点からの見解を受けています。これらの委員会への諮問、答申や毎回の委員会の審議の内容については、NHKオンラインのインターネット活用業務のホームページで公開しています。なお、2019年度は、委員会の議事内容に関する公表資料の充実や、意見、苦情等の受付に係る要件の見直し等について、委員会と検討を進めます。

2019年度、NHKは創造性と一層の効率的運営を追求しつつ、公共放送として、どのような公共性を有するサービスを提供すべきかに留意しながら、実施計画に則って適切にインターネット活用業務を実施していきます。